〔九日夕刊〕　大正十年四月二十二日第三種郵便物認可　昭和五年六月十日　聲城新聞

（九日夕刊）

休刊　大祭日翌日

定價　一部二錢　郵稅　一ケ月　六十錢　十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢　增

福島縣平町田町十六番地
發行兼編輯人　藤沼鹿輔
發行所　聲城新聞社
電話五六八番

コレクトマニア

北見晴雪

僕には何でもかでも蒐めて見たいと言ふ妙な惡くせがある。目に手に耳に觸れる凡のものをコレクションして見たいのだ。併しこれと言ふ一つのものに熱中しない。

現在蒐めて見やうとしてゐるものゝ中にはプログロテスクな醜骸がある。

この蒐集には我樂太宗平凡寺の三田林蔵氏がある。だが僕は決して三田氏を眞似た譯ではない。これを蒐める動機は單純な考へからだつた。恰度十五、六歳の頃だつたと記憶してゐるが當時日曜學校に出入りしてゐた僕はバイブルの中の基督が十字架にかけられる場面にしんこくな敬意を拂つてゐた。

基督がはりつけに架けられた處はゴルゴダ丘と言つた（又はカルバリ丘）ゴルゴダ即ち髑髏でベンネームにまでドクロを採つて人の餘り好まないドクロ、コレコトとまで進んだのである。

ドクロの遺物は勿論ドクロに關するものであればその如何を問はず蒐めて見たいと言ふ慾求心がボツ〳〵としてゐる、多〳〵蒐集つて見るとグロテスクでもあるが却々面白味がある。ドクロ庵と稱する私室には骸骨なつたものだ、中には大道から拾ふたものも尠くない。又高いチップを支拂ふてカフエー行ひをした事もある。今一枚一枚について調べて見ると實に思出が清く面白いエピソードもあつた。一枚の燐票が十數圓の費用を要したのもある。又ペーパーシークなものモーダンなものの稱ぶりどりである。

今蒐集つてゐるものを數へて見るとザット二千枚以上はある。日數にすると滿足屈託するより外に活動する有和の日▲六白の人　緩より大事を敗ることもあり▲一白の人　できさうに思はれて小欲に妨げられ易き日▲二黑の人　退く時にはあらざれと進には十分用ゐよ▲三碧の人　初一念の通達する吉日氣緩みせぬ樣に注意▲四綠の人　期待の旨、知らせて參りました。

そのことに依つて彦九郎は彼がまだ二十歳にも滿たぬ少年であつたことを知つて少からず驚かせられました。

やがて常陸介と約束の十月一日も目睫の間に迫つて參りました。

九月半ばの或日

ひこ九郎はしばしの暇を告げようと高芙蓉の邸を訪れました。

「おゝ、これは高山氏か」

その時、芙蓉のもとには來客中でありましたが、その客といふのは高辻郷家の雜掉である例の柴田主計でしたしで、仔細なく、彼、その一座の中にゐちびかれました。

「これはさいところへ來さ水車のやうに早く。そうしてその間にも着々、彦九郎ども貴殿の御噂、申し上げの樣みは遠せられて行くかに見ゐました。

先づその年、六月にはわて、側の主計をかいりみまざ〳〵高辻郷からに召し出しがあつて加賀候から、學校建築の入費をすべて負擔せられる旨の返答があつたことを聞かされました。

加賀候は、碕辻大納言と州路へ旅をいたさねば相成らぬので、本日はお暇にとつた次第でござる」

「實は、拙者一月ばかり播磨、例の學校御普請も、もう遠からずに手をつけられるといふ今になつて、いまだ御一人であられるも如何

みたがこれは中々入手難い中に居つた當時鎌田の橋の下から犬の骸骨を拾つたが犬のでは問題でない、

燐票—これは最初友人の友人のため一つ二つ蒐めてゐたのであるが面白い程夢中になつて來るので人にやるのが怠氣が出て蒐めて見る氣にもなつたものだ、中には大道から拾ふたものも尠くない。又高いチップを支拂ふてカフエー行ひをした事もある。今一枚一枚について調べて見ると實に思出が清く面白いエピソードもあつた。一枚の燐票が十數圓の費用を要したのもある。又ペーパーシークなものモーダンなものの稱ぶりどりである。

今蒐集つてゐるものを數へて見るとザット二千枚以上はある。日數にすると滿足屈託するより外に活動する有和の日▲六白の人　緩より大事を敗ることもあり▲一白の人　できさうに思はれて小欲に妨げられ易き日▲二黑の人　退く時にはあらざれと進には十分用ゐよ▲三碧の人　初一念の通達する吉日氣緩みせぬ樣に注意▲四綠の人　期待の旨、知らせて參りました。

そのことに依つて彦九郎は彼がまだ二十歳にも滿たぬ少年であつたことを知つて少からず驚かせられました。

やがて常陸介と約束の十月一日も目睫の間に迫つて參りました。

九月半ばの或日

ひこ九郎はしばしの暇を告げようと高芙蓉の邸を訪れました。

「おゝ、これは高山氏か」

その時、芙蓉のもとには來客中でありましたが、その客といふのは高辻郷家の雜掉である例の柴田主計でしたしで、仔細なく、彼、その一座の中にゐちびかれました。

「これはさいところへ來さ水車のやうに早く。そうしてその間にも着々、彦九郎ども貴殿の御噂、申し上げの樣みは遠せられて行くかに見ゐました。

先づその年、六月にはわて、側の主計をかいりみまざ〳〵高辻郷からに召し出しがあつて加賀候から、學校建築の入費をすべて負擔せられる旨の返答があつたことを聞かされました。

加賀候は、碕辻大納言と州路へ旅をいたさねば相成らぬので、本日はお暇にとつた次第でござる」

「實は、拙者一月ばかり播磨、例の學校御普請も、もう遠からずに手をつけられるといふ今になつて、いまだ御一人であられるも如何

芙蓉は驚いたやうに云ひ

いれかへ御入門なされられては如何かと思ひ居りますのぢやが、喃、貴殿は如何お老へさせられるかな」

こういつてたづねかけました。

「たゝ、全くでござる」

彦九郎も、今更のやうに氣づいて頷いて

「そのことは、心にかけてしかねて居り申した。して柴田殿、御老へは何とでござる」

かういつて主計の意見を求めました。

芙蓉は驚いたやうに云ひ

いれかへ御入門なされられては如何かと思ひ居りますのぢやが、喃、貴殿は如何お老へさせられるかな」

こういつてたづねかけました。

「たゝ、全くでござる」

彦九郎も、今更のやうに氣づいて頷いて

「そのことは、心にかけてしかねて居り申した。して柴田殿、御老へは何とでござる」

かういつて主計の意見を求めました。

御合點參るまいがかね〳〵貴殿の御身分のことについては、主計どのから詳しう承り居り申した　といふの

世の人達へ

植田町　白銀洋子

空想家で戯曲家の他閣の人よ！

あゝあなた方はあまりに神經質ではないでせうか若い人々にとつて！

よく考へてみて下さい男と女と話をする…殊に若い者などが……

（特殊の人をのぞいて）そんな所をみると直にいろんなことを

いひますね

そして當人等の知らないうちにいろ〳〵いひふらしますね

いくら若くつたつて女だらうが男だらうがちつとも用のない者なんて

恐らくは一人もないでせうよ

その人達が五分位會つて話をしたつて

何がおかしいんでせう？

何があやしいんでせう？

——私は判斷に苦しむ

何か事あれかしと網を張つて待つてゐるあなた方

目まるで獵師のようですね

つかまへられた人こそ

く迷惑ではないでせうか

そして

若い人達を苦〳〵めることが

世の人よ！

あなた方の特づある一種の變態的な殘忍性（いひすぎたかもしれないけれど）を滿足させるのですわね

——あゝ私がそう考へてゐる

世の人よ！

もつと大きく眼をみひらいて下さい

限りなく大きい青空のような

限りなくひろい海のような

氣持で……

もつとあたゝかい心で！

そして

貴方がたのあまりに冷い

鋭いひとみのかげに泣いてゐるいくたりかの——

いゝわ、數られない人達

のあることを忘れずに

若い人々をみてやつて下さい

世の人達へたゞねがひする

こと——

和歌

小川郷　松崎幽泉

生活の裏面を歌ふ

ちゝのみの父は再び來ませども　追憶の夏は又廻り來ぬ

梓弓無き數に入りし人を　戀ひつ　過ぎ行く月日の早きを悲しむ

幾年か憶偲れたり一茶の上に　今日行みて山の香に醉ふ

雨の窓に物思ひあれば停車場を　出で行く汽笛の寂しらに響く

六月の夜を乳ぶみとなつかしも　別れし友に會ふ心地にて

同　平岡樹月

初夏の陽を浴びて集ひる兒童等と　遊びたゞる程童心は湧く

眞つ白に野茨の匂ふ草の戸に　泣いじやくり居る幼兒一人

長々と蛍魚賣る盤閑ゆ項　ショーヴェンドーも夏の戀び

雨雲の低迷したる黄昏に　手許ふ暗く桑刈り急ぐ

俄雨水嵩增す程注げども　釣する人は動くともせず

同　吉岡獨歩

亡門下東谷てる子を憶ふ

栗の花黄なるを見れば去年の夏の　彼の女のことがまざまざと浮かぶ

初戀のそれにかも似てひたすらに　我れを戀ひたる彼の女なりしが

時鳥哀れ彼の女の上もやと　胸騒がせし夜さりもありき

實梅熟るゝ頃なりしかな散歩をも　なし得ぬ程に重りたりしは

柿の花のソーと落ちゆく　それのごと　彼の女の運ござる

命は日々に弄なりき

廣告

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

平芳醇無比
白馬の雪
松本德一吟釀
平電話七五二

春夏向の
小供洋服生地と
新柄レース　一寸巾から二尺巾まで
澤山入荷致しました

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇

婦人手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

平町五丁目角
大販賣店　山野邊藥局

セイコー時計の値下斷行
景品は特賣
金解禁と…國產品の愛用…
景品總額金拾貳萬圓
景品內譯
一等　蓄音器寶杏　三百六十本
二等　置時計壹ヶ　五百本
三等　置時計壹ヶ　一千本
四等　目覺時計壹ヶ五　千本
五等　特製ナイフ　全部へ
時計は信用ある精工舍製品を

平三
特約店　大谷時計病院
電話十九番

初夏サロンの新裝
店內に新綠の氣分を集め、アイスクリームを開始いたしました、ドーゾ御用命を……
……（御一人前十五錢）
田町　サロン
電話三五二番
サロンの公休は毎月第三日曜

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

植田町本町
前田醫院
……入院隨時……　電一二四番

夜診
胃腸　內科　病腸虫病指二十
專門　內科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病
專門　外科部
松村腸胃性病科醫院
（平南町電話一〇七番）
療間

六月一日ヨリ
夏物新製品大賣出し
涼味溢るゝ今夏の流行品を各種豐富に取揃へて品質に價格に自信ある新安値品
昭和五年流行界の
中形各種陳列
婦人倶樂部　ゆかた表現　ゆかた
昭和調婦女界ゆかた　繪羽模樣ゆかた
リーグ戰　ゆかた外十數種
粹で!!高尚な!!
絽廣帶と單帶陳列於階上
絽縮紗　絽友禪　銘仙
モス友仙　モス着尺　蚊帳
特賣品　手拭中形六十五錢　ホロかや五十五錢
友仙モスリン一尺九錢
三井吳服店
平町電話三七五一八番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九
病室完備

第二次家調委員に井上野崎兩氏當選

前澤氏は僅か三票　平町家調委員會

平町の家屋税調査委員會は既報の如く今九日午前九時より平町會議室に於て開き豎頭第二次委員二名の選擧を行つた結果

六票　井上　茂作
六票　野崎　滿藏
三票　前澤文太郎

以上の如く井上、野崎兩氏が當選し民政黨の本家を自稱する萩原義雄氏系の前澤文太郎氏が落選したことは一般の豫想を裏切つた民政黨の面目問題にして之れが爲め兩派の反目睨合は今後益々露骨に現れるであろうと觀られてゐるが右三氏の投票別につき信ずべき方面の觀測によれば左の如き分野である

△井上氏へ投票　鈴木光吉、長小次郎、齋藤寅吉、會川延太郎、櫛田榮太郎、井上茂作

△野崎氏へ投票　鍋田三重、荒木忠友、堀江正茂、馬目玉彌、鈴木重助、野崎滿藏

△前澤氏へ投票　吉岩安次郎、荒井淺次郎、前澤文太郎　（以上）

平税務署管内　清涼飲料

平税務署調査による石城郡下に於けるラムネ、サイダーの製造所は今二ヶ所、小名濱一ヶ所で本年度生産高はサイダー三百六十石、ラムネ二百五十八石、計五百十八石約四萬五千圓で前年に比し石數六十九石税額百十一圓の增であるなほサイダーは一本につき税金二錢でラムネは一本六厘である

委員會に示された　家屋税の原案

賦課額は昨年より百圓增　平町の家屋價格

平町の家屋税調査委員會は別項の如く第二次委員の選擧終了後直ちに調査會に移つたが町當局の調査原案に現はれた平町の家屋狀態を見ると

構數（家を持つ名儀人）は三千五百八十五、棟數五千四百七十八棟で此の建坪合計二萬四千八百九十三坪に達してゐて、之の家屋を買買價格に換算すると二百五十七萬一千一圓四十四錢に相當してゐる

而して之れを家屋税賦課の基本となるべき賃貸價格に換算すると總額八十一萬八千三百六十四圓にして坪當り七圓三十二錢　棟當り百四十九圓三十九錢となり構築び入り宿泊中の福島市築町二六建築業石崎魁が枕本にあつた現金九圓三十錢を窃取された事件あり更に七次に本年度平町に對する家屋税の賦課額は二萬四千五百五十圓九十六錢に比して昨年の二萬四千三百六十三圓十錢に比し百八十錢銀側時計一個を窃取された事件あり平署で取調べの結果右は去る三月五日同橋區橘町一一四クオル商店員齊藤三郎が現金十九圓八日朝同樣手口で東京市日本家に雇はれ四月八日解雇され同家番頭山形縣東置賜郡和田村青野順（三七）の所爲とにらみ手配中七日午後三時ころ湯本町に潜伏中平署猪狩刑事が取押へたがこの外數件數百圓の窃盜が確實となつたので取調中

石城郡下の宿泊中の福島市築町二六建築業石崎魁が枕本にあつた現金九圓三十錢を窃取された事件あり更に七次に本年度平町に對する家屋税の賦課額は二萬四千五百五十圓九十六錢に比して昨年の二萬四千三百六十三圓十錢に比し百八十錢銀側時計一個を窃取された事件あり平署で取調べの結果右は去る三月五日同橋區橘町一一四クオル商店員齊藤三郎が現金十九圓八日朝同樣手口で東京市日本家に雇はれ四月八日解雇され同家番頭山形縣東置賜郡和田村青野順（三七）の所爲とにらみ手配中七日午後三時ころ湯本町に潜伏中平署猪狩刑事が取押へたがこの外數件數百圓の窃盜が確實となつたので取調中

丸新館の　枕探し

元の番頭と判明

平町字田町旅館丸新館事山丸うめ方に去る四日未明賊

漆畑氏の手で　愈々横領の告訴

遂ひに拾收し能はぬ　民政黨の内訌

石城民政部會に於ける若松辯護士の手で横領の告訴を對野崎兩派の闘爭は益々熾烈となり今回縣會議員若松傳へられてゐる、もしこの美三氏外三十一名が共有物として平町南町石城民政倶樂部の建物の保存登記をなしたのに所謂野崎派が一名も加へられず

結果から見て倶樂部は若松派に專有された形となり之に當然對抗するであろう野崎派が如何なる態度をとるかは極めて注目され拾收し能はざる迄に混雜の度を增し結果は明年の縣會戰に重大な影響を及ぼすであろうと觀られてゐる

保存登記に依つて家屋税調査委員選擧の有資格者として投票行爲をなしたものもあり事とて、家屋税調査委員選擧にまで其の類推及ぼす事になるので訴訟が提起されるか否かは頗る注目されてゐるが同黨の内訌は今や拾收し能はざる迄に混雜の度を增し結果は明年の縣會戰に重大な影響を及ぼすであろうと觀られてゐる

平局電話擴張

郵便局では六日から左記の各地と通話を開始した

不具の子二人に六十の老婆

夕べの糧にも窮す憐れな貧乏人　▽―平町塊方に溢れる失業群

石城郡地方に打ちつづき續く深刻な不景氣、失業そして職業難、收入激減――三度の飯が二度、一度――市民はいま、塗炭の苦しみにあがいてゐる……世は擧げて夏だ、すが〳〵しい緑の夏だにも拘らず生活苦に苛まれてゐる無産者の群の如何に多い事よ

――◆――

「職を與へて下さい、力もある、涙を泛べて窮狀を訴へる者もある。

――◆――

が然し「少しの給金でもいゝなら雇はう」といふのは時節柄拂底の女中、子守とにらみ手配中七日午後三時ころ湯本町に潜伏中平署猪狩刑事が取押へたがこの外數件數百圓の窃盜が確實となつたので取調中

――◆――

「六歳を頭に、五歳と四歳と三人の子供のあると四人の子と、年老いた母と妻と……家族七人は職を失ふて路頭に迷はねば成りません」と泣き崩れて悲慘な職人の一家、「六十を越した老婆が十七歳と十四歳の不具の子二人を抱えて夕べの隔差があつて紹介所の献身的斡旋も徒勢に終る事が多い。需要供給の不圓滑は此處の世界へも如實に現れてゐるのだ

――◆――

「働きます、親を、妻を子を兄弟を干乾には出來ません」と言つて平職業紹介所の門を叩く貧い人々の群――は毎日いかなる日でも十人と下らない、一日四十錢でも五十錢でもいゝ、どうぞ何處かへ世話して下さい」あつて拜まんばかりの者

――◆――

「時の記念日」

城山　大和田豐吉

日月のたつのは早いもの今年もまた「時の記念日」がまめりました、反省また反省、充分に時を生かし、生活を立派にしてゆきたいものであります。かしこくもわが、明治天皇の御製には

時はかる器は前にありながらたゆみかちなり人の心は

と仰せられてあります、まことに雄々かこしき大御心の前に、ひれふさずには居られませぬ。

死金を使ふといふことがあります、必にも身にも一利をもたらさぬ酒、他人に迷惑をかけるばかりなる酒を無駄にするなら餓死人に同じとあります、アシヒルイはなまけることは生きてゐる者の死んで墓にゐることだと申しました。

日本人口は八千餘萬人、うち働けるものを六千萬人として一日一時間ひだを省けば五千萬時間、一年に百八十二億五千萬時となります、かりに一時間三十錢と見ても一年には實に五十四億七千五百萬圓の大金となります。

一人一日時間のむだを省くことが、こんな大きな結果になります。時をむだにすることは最大の奢侈であります。

かるが故にわれらがみ佛は仰せられ數へられましかも世はみな無常なり時を善用せば極樂となり、時を惡用空費せばすなはち地獄となると、まことにまことに時を大切にしなくてはなりません、時こそ一切の生命時こそ一切の光明であります。

あすありと思ふところの花ださくら、夜はにあらしのふかぬものか、人生五十年と見て之れを時間的に檢すれば

發育・十五ヶ年
休業雜務　十一年八ヶ月
本業　九年七ヶ月
病氣其他　二年一ヶ月
ねむり　十一年八ヶ月

この日この時はふたゝび巡ることはありません、のちになつて悔ゆることない世ゝ、最善の努力をこの一刻〳〵につくしてゆきませう。

今日から是非、ラジオの如く時間をきちんと使つてゆきませう、約束をたがへぬこと、無駄をせぬこと。

いささらばこゝをたつたのもみち川ひとの心にあきの夜に、訪問いたしまして、表店は無用、用を早くすませて早くかへつてくること、下駄にお灸をせられるやうなことのないやうに。とまれ實行第一、百千のよきことを知るとも雖も、一つだに實行しないでは何の役にも立ちませう、實行が何より大切であります

磐炭の落盤

一人即死一名重傷

▲千葉市（六〇）▲下總野田（五〇）▲松本一〇〇　靜岡市（一〇〇）千住（五五）蒲田（六〇）

内郷村磐城炭礦坑夫加藤福治（三五）内協宇三郎（二四）は八日午前二時頃入坑作業中落盤の重傷を負つた

磐中勝つ

平鐵道對野球

磐中對平鐵道倶樂部の野球戰は八日午後二時から磐中グラウンドに於て行つたが一〇對十四で磐中大勝した

加藤主事着任

福島縣農林主事尾方治右工門氏の後任として農林主事補加藤敬義氏七日午後三時半來平着任した

內郷と南赤井で　同時刻に發火

損害合計三萬圓

石城郡赤井村大字南赤井酒造業木出カク方から八日午前一時四十分頃發火、住家一棟、酒倉二棟及び隣家の木出德彌方二棟を全燒同三時半鎭火した、原因調査中であるが風呂場の殘火からしいと損害は約二萬圓の見込みであるが防火に努めた赤井村消防組消防手根本武雄（二八）は酒倉に上り防火中火の廻るをみて飛降り石腕頭部に瀕死の重傷を負つたが同時頃內郷村々會議員草野喜平方から發火住非住家各一棟を全燒した、原因は煙突からしく目下調査中尚は損害は赤井村の火災と合せて三萬圓餘に上る見込みである

平窪村戶數割

石城郡平窪村では明九日午後一時から同役場に於て村會を開き五年度戶數割賦課額決定を行ふ

石城の產業　振興會

神谷分場で開催

神谷村農試分場では七日午前九時より石城產業振興會を開會しらがその提出事項は左の如し

一、稻早發勵に關する件
二、稻苗代害蟲驅除に關する件、三水稻第二次採種田經營に關する件
四勵業是の設立に關する件、五裏會の活動に關する件、六米の販賣方法に關する件、七石城郡として特に試驗研究すべき事項質疑應答會開催に關する件、八園藝生產に關する件、九自家用醬油に關する件、十園藝生產及販路に關する件

日語講習會

三井炭礦の試み

磐崎村藤原三井炭礦では朝鮮坑夫を多數使用していわが日本語が辯せざる爲め非常に不便を感じ朝鮮人日本名佐藤清三郎氏が講士となり。日語講習會を日曜ごとに開會すべく昨八日午前十時同事務所で發會式を行つた

あす時の記念日

傳宣ビラや各種方法で　平町の大宣傳

明十日は「時の記念日」である爲め平町役場を初め郡下の各寺院各種團体ではそれぞれ月三十日石城郡亦井村高田市協會議事堂に於て講習會を開催するが參加區域は北海道及び東北六縣で平町團体事務所では講習會員の申込書を受け付けている

御大典章下附

平警節柄　子供ばかりか兩親と姉と妹まで加へての居食ひでは堪まらないワケだ、是れから精々呼んで上げることにしようネ――皆さん――誰と…た鯉をサ◆鍋ヶ冠つてお座敷に出る藝者があるなんて、ソンナ馬鹿々々しいことがあるもんですか、イヤあるから仲物騷動なんてお上るンださい子のあたまを見ろあのあたまを◆久本ンさよ子がたかアさんの病電看護に行つて四、五日た座敷を失禮したとの申わけその看護人が郷里の水戶を発通りして東京でたゞ居見物とは何だアッ◆築家の○△△を評して紳君の面とは隨分失禮ネ、アレでた客樣には親切で熱烈で、マア鬼角にして佛心、いふとこだよ、ヒゾノ親愛を寄つたらしい男が涎垂ダラ〳〵ネ、只さい涙れ切つてる此

御大典章下附

警察勤務署員中去る御大典章下附事務にたずさわり御大典章を下付される者左の如し

佐久間正美、齊藤浩、若林伍郎、武山要、柳原泰二、橋本四郎、菊地喜兵衛、瀨谷藤則、橋谷田千代藤　（以上）

家畜保險　奬勵

講習會を開く

社團法人帝國馬匹協會では農林省後援の下に家畜保險の奬勵並に之が組會經營奬達を圖る爲め關係指導者に必須の智識を授ける爲め來る二十一日より五日間秋田市協會議事堂に於て講習會を開催するが參加區域は北海道及び東北六縣で平町團体事務所では講習會員の申込書を受け付けている

時言

平町の家調第二次委員選擧、野崎六對前澤の三は距離が遠過ぎる　□

漁夫の利をはずした前澤君の顏は兎もあれ、民政黨本家の体面を如何せんさるにしても、三世諸佛の冥加に係る野崎君の榮光、彼の得意想ふべし　□

不具の子二人を抱えて飢ゑに迫る六十の老婆がある、涙ある仁はないか

改稱廣告

初夏の候と成りました皆々樣愈々御健勝の段慶賀の至りに存じます幣店開業以來多大の御引立に預り厚く御禮申上ます

就ては小店儀好間村に弊店同一の屋號有ります爲、通信、其他間違の點多きゆ以て五月二十六日より平町高橋時計店事屋號精幸堂（セイオコ）と改稱致しました。不相變御用御願申上ます

高橋時計店事改め
セイコオ堂時計店
平町土橋通リ

平新川町十九
木村病院
電話一六四
產婦人科　院長　木村寅次郎
女醫　木村コウ
內臟外科　醫學士　松永憲一
整形外科
藥局　東京藥學士　萩原駿二

肺結核、肋膜炎、感冒咳嗽に
肺炎カタル、氣管支喘息に
高速度特効藥
ホシアンチツベルケシ
大　五圓　二五日分
中　三圓　十二日分
小　一圓五十錢　五日分
淋病滑渴にホシゴノール
定價――三圓　一圓六十錢　一圓也
平町三丁目（平郵便局隣）
ホシチアーンストア
電話四二九番

◆內臟外科
◆外科一般
◆花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齋外科醫院
電話四三六番

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番